

平成29年度 全国学力・学習状況調査概要から課題と改善に向けて

札幌市立光陽小学校

◎調査の内容

①教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 (国語A・算数A)	主として「活用」に関する問題 (国語B・算数B)
☆身につけておかなければ後の学年等の学習に影響を及ぼす内容 ☆実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など	☆知識・技能などを実生活の様々な場面に活用する力などにかかわる内容 ☆様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力などにかかわる内容など

②生活習慣や学習環境に関する質問調査

児童に対する調査
☆学習内容、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査

〈教科に関する調査から〉

【国語】教科に関する調査の結果概要及び改善の方向性について

本校の概要

【区分及び領域】

主として「知識」に関する問題A

「話すこと・聞くこと」
全国平均を下回っている

「書くこと」
全国平均をやや下回っている

「読むこと」
全国平均を下回っている

「言語事項」
全国平均を下回っている

主として「活用」に関する問題B

「話すこと・聞くこと」
全国平均を下回っている

「書くこと」
全国平均を下回っている

「読むこと」
全国平均を下回っている

調査における課題

- 互いの話を聞き、共通点や相違点を整理すること
- 目的や意図に応じて内容の中心を明確に書くこと
- 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、必要な情報を見つけること
- 学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読む・書くこと

改善の方向

- 話の内容から主語述語を明確にし、その手がかりとなる言葉を聞き取るための話し合い活動を取り入れる。
- 身近な題材を活用し、伝えたいことと合わせながら自分の考えを書く指導を充実する。
- 自分の考えを明確にしな読む指導を充実する。
- 漢字などの習熟は今後も大切にしていき、作文などの書く活動においても活用する。

【算 数】 教科に関する調査の結果概要及び改善の方向性について

本校の概要

【区分及び領域】

主として「知識」に関する問題 A

「数と計算」

全国平均を下回っている

「量と測定」

全国平均を下回っている

「図形」

全国平均を下回っている

「数量関係」

全国平均を下回っている

主として「活用」に関する問題 B

「数と計算」

全国平均を下回っている

「量と測定」

全国平均を下回っている

「図形」

全国平均を下回っている

「数量関係」

全国平均を下回っている

調査における課題

○小数のかけ算や分数の割り算の意味の理解と計算をすること

○単位量あたりの大きさの求め方を理解し、必要な情報を判断、特定すること

○平面や立体図形を捉えること（空間認識）

○示された場面を適切に読み取り、全体の人数を求める式に表すこと

改善の方向

○小数や分数などの計算を、数字だけで扱うのではなく、具体物の操作を多く取り入れ、見通しを持ちながら計算ができるようにする。

○日常生活の様々な経験から、単位量あたりの大きさで比べるよさを実感できる指導を充実する。

○図形の構成要素に着目し、図形の位置関係や対称性を客観的に捉え、操作活動などの方法や考えから学んで判断する指導を充実する。

○既習事項を生かして学ぶという習慣の定着を図る。

○文章題の意味の把握を意識させ、「何を求めているのか」を理解する時間を確保する。

〈質問調査から〉

子どもたちが生活や学習に対する質問に答えたものです。本校児童の傾向についてお知らせいたします。

○約9割のこどもが「学校で友達と会うのは楽しい」「好きな授業がある」と答えています。多くの子どもが楽しく学校生活を送っています。

○「友達の前で自分の考えや意見を発表する」ことは得意である子どもの割合が全国平均を上回っています。しかしながら「友達の話や意見を最後まで聞く」ことが得意な子どもの割合は全国平均を下回っています。学習の課題改善点にも結び付くものです。

○「朝食を食べる」「宿題や予習をする」時間をしっかり取っている反面、「テレビやDVDを見る」「ゲームをする」「携帯やスマートホンの利用」時間が多くなっています。

○「今住んでいる地域の行事に参加している」と答えた子どもが5割に満たなく、今以上に地域や社会に目を向けていこうとする心を育てていきます。

本校といたしましては、今後も課題となることをしっかり受けとめ、改善の方向を定めて児童の指導にあたりたいと考えております。